



SFS通信

平成26年12月20日発行(2014)

日本ボーイスカウト新潟連盟

スカウトフェローシップ委員会

編集長 杉山 剛

〒959-2658胎内市西条602-11

TEL & FAX 0254-43-4879

事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町

TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

第9回(平成26年度)全体集会開催報告

- 1・開催期日 平成26年10月7日(火)15時集合 ~8日(水)10時解散
 2・会場 旅館 夕焼けの宿 愛幸(新潟市西蒲区越前浜)
 3・参加者 星 藤塚 杉山 齋藤 高橋 佐藤 小田 小林 鈴木 金井 杉山(和)
 来賓:井上理事長 本間県コミッショナー
 4・内容 16時~SFS委員会全体集会・来賓講話 入浴の後 夕食・懇親会
 8日は朝食後9時出発 弥彦神社の宝物館見学の後流れ解散

(1)全体集会

物故者と災害にあわれた方々への哀悼の意を捧げた後、議事に入り、前年度報告(活動内容・決算)今年度計画(活動内容・予算)の審議を行いました。

*活動内容:昨年と同じく下記項目とします

- ① SFS通信を年4回発行する。
- ② 各ラリーへの協力と広報活動
- ③ 上記を支えるための会議

*会計・予算:基本的に了承されました。

昨年度予算超過したので、今年度は全委員協力して経費削減を行う。

*役員:全員留任とする。

ただし監事6名を監事鈴木正氏1名とし他の方5名は幹事に就任する。

*SFS通信の状況(杉山編集長より)

① もう少し楽しい頁を増やしたい。その為には楽しい話題提供が必要なので諸委員への協力要請をしたい。

② 杉山晃相談役・編集委員が闘病中、早期回復を願っている。

③SFS通信と県連広報誌との関係

この件については当日の出席の皆さんの意見を基に後日事務局と調整した結果以下のようになりました。

①広報誌を兼ねることへの道のりは遠い。

②本間県コミッショナーから定期的に原稿を戴く。(県コミの了承を戴いた。)(現在発行されているコミッショナー便りとは別原稿)

(2)本間県コミッショナー

*WB実習所(BS)について

所長:和合氏(福島)主任講師:青木氏(長野)

所員:県内2(佐藤・平田)県外3

参加者:県内10名 群馬1名 長野1名 秋田2名

*23WSJについて

隊長:今井 副長:大澤・小林・女性L(長野)

スカウト:新潟24名 長野9名 **募集3**

テント・テーブル・椅子・炊具は支給される。

(テントは2人用ドーム。)

*WSJホームステイ大枠決まる。

英国から40人が7/26~28にホームステイ新潟駅で迎え送る。ホームステイ先はこれから。

*新ユニフォームについて

県コミが着用された新ユニフォームをみて各委員から思い思いの感想が述べられました。

*登録数の現状報告

目標の1000人に対して897名。これからカブ隊ビーバー隊への登録増を期待する。

*現在実施中のBS隊へのアンケート(経過報告)

28団26ヶ隊に対し回答は16ヶ隊である。(未回答の団は・・・???)

CSからBSへの上進率は約80%だがその後退団が続いている。技能章はほとんどなく、進級も遅い。(初級80%2級20%1級10%)

*各種行事に参加するBSを見ていると自主性が育っていないことや技能修得レベルの低さに気付く。(具体例を多く挙げ説明いただきました)・・・要改善・・・SFS委員の協力必須!!

(3) 井上理事長(総会後半と懇親会にご参加)

*1月31-2月1日広報講座(三条)に参加!!

*スカウト人数減少について

スカウトOBの子供や孫の入隊が少ないという事は我々に問題提起していると思う。

*仏教スカウトについて

真宗大谷派・・・現在約80団

真宗本願寺派・・・現在約100団

*信仰奨励章について

仏教スカウト指導者研修会があります。指導者の研修も必要。(多くの宗派の指導者が参加しています)

日本では宗教と言うものを表に出す事が困難な時代ではないか。それより、スカウティングの原則をきちんと押さえ、自信をもって人間はどのように生きるべきかを指導していくことが大切だと思います。

(SFS通信編集長としての意見:如何に生きるべきかというテーマこそ信仰を離れてはあり得ないと思います。固有名詞のある宗教から離れた信仰指導をするべきではないで

しょうか)

*SFS委員会への提言

YNW(ユースネットワーク)との繋がりを考えたらどうか。世代をつなぐことでSFSにしか出来ないことがあると思う。

(4) 懇親会 二次会

談論風発とはこの事かと思うほどあちこちで話が盛り上がっていました。

理事長恒例のマジック。いくつか紹介の後盛り上がったのは四つ玉をつかった瞬間移動、出来そうでできない・・・それでもやって見ようかなと思わせるのか、高橋さん(新発田)が真剣に学習していました。近日デビューします。請うご期待!!

理事長曰く、心理作戦でありプログラムである。スカウト訓練に共通するものあり。もう一つ、マジックには研鑽が必須。指導者たるもの日々の研鑽を忘れてはならない。・・・SFS全体集会の折に必ずマジックを披露して戴いている趣旨はここにありでした。

訃報 杉山 晃 氏 逝く

SFS委員会相談役、杉山晃氏(新潟16団育成会長)が10月18日逝去されました。

21日(お通夜)22日(告別式)には多数のBS関係者が参列しました。

杉山晃氏はSFS委員会の設立から関与され初代委員長として我々を牽引されました。全体集会の10日後、その成功を見届けるかのようなお別れでした。

感謝をこめてご冥福をお祈りいたします。

「全力で歩んだ夫の人生でした」

夫の歩みを語る上でボーイスカウト運動は欠かせません。自身も幼い頃に取り組み、その後息子たちも所属し、そして35年前に『ボーイスカウト新潟第16団』を立ち上げました。志を共にする指導者や子供たちに恵まれて、大変大きな団になり・・・結束も固く、夫は人の輪に囲まれて充実した日々を送っていたものです。

また『SFS委員会』の一員としても尽力し、年に4回発行する『SFS通信』の編集長の職務にも励んでおりました。昨年体調を崩したのを機に相談役に徹するようになったものの、常にお仲間方のことを気にかけていたように思いま



お仲間方のことを気にかけていたように思います。大きな手術を乗り越え、つらい闘病生活にも耐えてまいりましたので、やっと自由になれた夫には、もう何も考えないでゆっくり休んで欲しいと願うばかりです。

夫 杉山晃 は、平成26年10月18日、享年80歳にて生涯をとじました。良きご縁を結んで下さいました皆様へ、家族一同深く感謝を申し上げます。

平成26年10月
喪主 杉山 和代

葬儀で戴いた“会葬御礼”の文章が杉山晃氏のBSとの係わりを見事に表していました。お書きになられた奥様 杉山和代様のご了解を戴いて一部を前頁にご紹介させて戴きました。以下、関係された方々の故杉山晃氏を偲ぶ思いをお伝えいたします。

弔辞

ボーイスカウト新潟連盟相談役
ボーイスカウト新潟地区協議会長
齋藤 真恵

ボーイスカウト新潟第16団団委員長
ボーイスカウト新潟連盟理事
ボーイスカウト新潟地区委員会委員長
ボーイスカウト新潟地区協議会協議会長
ボーイスカウト新潟連盟

スカウトフェローシップ委員会委員長

を歴任され、現在は地区協議会相談役、スカウトフェローシップ委員会相談役として、スカウト運動に大きな功績を刻んで来られました杉山晃様の御霊の御前に、僭越ではございますが、スカウト活動、運動に携わる人達の代表として謹んでお別れの言葉を申し述べさせて戴きます。

杉山さん、なんとあっけないお別れになってしまいましたことか、寂しい限りです。心に大きな、大きな風穴が開いて終わった思いであります。この度の長期に渡る闘病生活に入られる前に、杉山さんは「前立腺の手術の際、胃癌の恐れがある」と言う話です。手術を受ける積りです。私は何回も手術を経験していますし、その都度回復しており、慣れていきますから大丈夫です。元気になって退院してきますよ」と言うお話を私は戴きました。一抹の不安な思いはありましたが、我慢強い、頑健な杉山さんのことですから絶対にお元気になられて再び戻って来て下さると確信してお待ちしていたのですが、誠に残念な結果になってしまいました。思えば、お亡くなりになられた前日の17日の午前中、SFS委員会全体会議の報告書を携え病院に寄せて戴きました際には、ベッドに仰向けに横たわりながら、私の報告に大きく頷いておられました。なにかお話をされるのですが、お口が乾いておられたせい言葉が十分に聞き取れませんでした。心に掛っていたSFS全体会も無事終わったことに満足しておられる様子が伺われましたし、共にSFS委員会を立ち上げて来られたお仲間の近況や杉山さんへのお見舞い

の言葉、そして一日も早く回復して戴きたいと言う仲間の皆さんの真摯な願い等に一々頷いておられ、私もほっとした思いを抱いたものでした。

お亡くなりになる前日の17日に寄せて戴きました際には、7日にお見舞いに寄せて戴いた時の病室から移動となり、ナースステーションのすぐ脇の病室に入っておられました。私の身内を見守ってきた経験から、いよいよの時が来ているのかなと言う一抹の危惧や不安も心を掠めましたが、いや、そんなことは無い、よく吐瀉したりしておられたから、その際に処置が早くできるようにする為なのだろうと敢えて不安な気持ちを振り捨てて病院を後にし、近々又寄せて戴こうと思いつつ家に戻りました。そして、18日の5時過ぎに奥様から悲しみのご連絡を戴きました。心にわだかまっていた不安がとうとう現実になってしまった。まだまだお話する機会も多々あると思っていた自分の迂闊さや油断にがっかりすると同時に慙愧の念に打ちひしがれる思いでありました。スカウト運動の振興の為には杉山さんにお力添えを戴かなければならない事が山積しておりますのに、ただただ残念な思いでございます。しかし、一つの救いは長期にわたる入院生活の中でも、私は一度も杉山さんの口から、悲観的な言葉や苦しいとか、難儀だ等と言うお話をお聞きした事ありませんし、奥様も常に笑顔で不便なバスを乗り継がれ看病に当たっておられました。病室には何ら沈んだ空気も御座いませんでした。ですから、必ず回復されるものとお待ちしていました。本当に凄い精神力であったと讃嘆の限りで御座います。

さて、私が杉山さんと御面識を戴きましたのは、昭和50年代の前半の頃、当時、大畑のカトリック教会の図書館二階での新潟地区委員会の毎月の会合の時であったかと思えます。その頃の印象は、とても前向きで、“思えば悲し昨日ま

で真っ先かけて突進し”と言う“戦友”と言う歌の文句にもありますような、気力に溢れておられました。当時、経営しておられた“建商”と言う職場に、毎月新潟地区で発行しておりました“地区便り”をお届にお邪魔してもいつも気さくに対応して戴きましたし、路上で“建商”と記されたトラックを見かけます毎に、“おお！杉山さん頑張っている”等と思ったものでした。当時、新潟地区では、毎年オーバーナイトハイクを実施しており、長い距離の場合は越後線の吉田駅から弥彦神社付近を通過して、旧弥彦街道を新潟の松美台の私の所属する教会迄歩き通す時や、赤塚駅や月潟駅、逆方向では亀田駅などから歩き始めるコース等数多く実施しておりました。多くのスカウトが参加しており、その数は80人程の数であったと思います。当然サポートする指導者の数も多く必要でありました。その際には、杉山さんは率先先頭に立ち、ご自分の16団からも多くのリーダーを支援に回して戴きましたし、資材も御提供戴きました。現在のスカウト活動の状況では到底考えられない盛況でありました。そんな折の一つに、明かり一つない旧北国街道の“二ヶ堤”の堤防で、通過するスカウトに食べさせるお汁粉の鍋を醸しながら語り合った事や、真夜中に通り過ぎていくタクシーの運転手さんに“あそこの消防小屋の前で4人寝ているよ”等と言われ驚いた事、そして測候所開設以来初めてと言う未曾有の豪雨を記録した白石での日本ジャンボリーの際には、救援資材を積み込んで真っ先に駆けつけて下さった杉山さんの姿が今でもまざまざと蘇って参ります。口だけで無く、身体をもって本当に真摯に取り組んで下さった方であったと心からの感謝と尊敬の念を捧げさせて戴きたいと思えます。そして、このようなスカウト活動の折には常に奥様とみどりさんを伴われ、すばらしい家族への愛情と労わりの様子を垣間見せて戴き、私はよく帰宅後に家族にこの話をしたものでありました。いつまでも忘れてはならないご家族への温かいご配慮のお姿を見せて戴きました。そして、SFS委員会の立ち上げから今日の隆盛に辿り着く迄のご努力や注がれた熱誠は大変なものであったと拝察さ

せて戴いております。昨年の全体会は妙高市での開催でありましたが、杉山さんはその際も手術を控えた身体で参加され無事務めを果たされました。当時私は体調が悪くご一緒させて戴くことは出来ませんでした。その後戴きましたご報告書類などから、そのお働きやご努力を拝察させて戴き、ただただ頭が下がりました。本当に、何一つ疎かにせず、真摯に緻密に取り組んで居られました。

さて、杉山さんには心に重くのし掛かっていたであろう痛ましいスカウトの事故の問題が御座いました。事故に遭われたスカウトさんが完全にご回復を遂げられますことをお祈りするところ大であります。これは私たちにとっても思いもよらなかった事であり、多くの教訓を戴いたものであります。この事故に対しても大変に誠実な対処をされ、私たちは安心して見守っておりました。一日も早く一切が解決され、杉山さんが魂の世界で安心して御霊を磨かれます日が一日も早く参りますことをお祈りいたしますと共に微力ながらお手伝いのできる事があればと考えております。今日までのスカウト活動に注がれました杉山さんのご熱誠とご努力に充分にお報い出来る言葉が非才の私には見つかりません事が誠に残念ではありますが、これを持ちまして感謝の言葉、そして彼岸へ旅立たれます杉山さんへのお見送りの言葉とさせて戴きます。どうか、スカウト運動が再び大きなうねりとなり、全世界の青少年の善導の灯となりますようにお守り下さいます様、魂の世界でのお働きをご祈念申し上げ終わらせて戴きます。



そのあと

理事長 井上 法英(長岡3)

その人が亡くなった時、私たちは何を感じ何を思ったでしょう。

その悲しみの中でいのちの厳粛な事実を知らされます。そして限られたいのちだからこそ、一人ひとりの存在の尊さや深さを改めて感じ、また生に執着し死を恐れる私たちの姿をも教えられます。

朝に紅顔ありて

夕べには白骨となれる身なり

(お文 御文章、蓮如上人)

いつどうなっていくかわからない毎日を私たちは生きています。だからこそ、この事実を通して、確かな人生を歩んでいくことが仏とられた亡き

人から願われているのです。

仏に出遭い、私たちの生き方、在り方そのものが問われ、そして同時に次の世代に何を手渡ししていくのか、大きな課題も与えられているのでしよう。

そのあとがある

大切なひとを失ったあと

もうあとはないと思ったあと

すべて終わったと知ったあとにも

終わらないそのあとがある

(「そのあと」 谷川俊太郎)

杉山晃SFS相談役を偲んで

SFS委員会委員長 星 栄一(長岡1)

杉山さんと私との出会いは、私が昭和55年4月に川崎47団から新潟1団に息子達と移籍した時からであります。杉山さんは、昭和55年4月に新潟1団から分封して、新潟16団を立ち上げたころでありました。したがって、杉山さんとは新潟1団ではすれちがいはりなりましたが、地区委員会などでご一緒でした。杉山さんが団委員長として、新設団を立ち上げ熱く燃えておられました。20年後の平成12年には登録人員150名を超える、県内でも最も活発な団にされました。私が平成8年に仕事の関係で長岡市に移住し、平成11年4月に新潟1団から長岡1団に移籍してからは、県連理事会や総会でご一緒するだけになりました。

平成3年7月に東京オリンピック・センターで開催された第6回日本アグーナリー(6NA)には、新潟7団の小田さんと共に杉山さんも障害ス

カウトを引率して参加されました。この経験をもとに平成7年7月に本県の妙高高原で7NAが開催されました。

平成14年6月、第6代目理事長の鹿野重氏の最晩年に県連規約の大改定があり、県連役員員の70歳定年制、運営委員会の整理統合とともに、スカウト・フェローシップ(SFS)委員会が新設されました。このSFS委員会は、鹿野氏の永年の夢の実現で、この立ち上げ運営には鹿野氏の意向で杉山晃、遠藤安一、大崎喜悽の諸氏が当たりました。初代のSFS委員会委員長として杉山さんが就かれ、鹿野理事長の遺志を継いで、SFS委員会の充実に情熱をもって当たられました。杉山さんは平成14年から5期10年にわたりSFS委員会初代委員長として、SFS委員会を育てて来られました。

私は平成24年に、杉山さんより是非にと乞わ

れ、2代目SFS委員長を引き受けましたが、全てを杉山さんに負い込んで運営してきました。きっと杉山さんは、歯痒かったのではないかと思います。杉山さんには、SFS委員会相談役としてご協力・ご助言いただき、和代奥様にも大変お世話になりました。

SFS委員会で最大の年間行事である秋の一泊の全体集会では、一年前の平成25年10月に上越地区の担当で池の平の「赤倉山荘」で行いました。この時、杉山さんは尿閉のために蓄尿袋を着けて奥様とともに参加してくださいました。本当にありがたかったです。その後、前立腺の手術をされ、本年2月には胃癌の手術をされました。

胃の手術後、食物の嚥下障害が生じ、入院を続けることになりました。和代奥様は毎日バスを乗り継いで病院に通われました。本年10月7、8日の越前浜の「夕暁の宿 愛幸」での全体集会には、杉山相談役は参加できませんでしたが、和代奥様が参加してくださいました。きっと杉山さんご本人も参加したかったのではないかと思います。その十日後の10月18日に、杉山さんは亡くなられました。

杉山さんが生み、育てたSFS委員会にとって、杉山さんを失うことは大変な痛手で残念ですが、これからも天国からご指導をいただきたいと思えます。永い間ありがとうございました。

杉山さんとの最後の一枚

SFS委員会副委員長 藤塚大造(新潟7)

SFS委員会第9回全体集会終了後の10月13日、入院中の杉山さんにその報告を兼ねて訪問したところ、奥様から写真を取りましょうということで見守りさんにシャッターを切ってもらったのがこの一枚です。

そのわずか五日後の18日夕刻、悲しい知らせを受け取り、愕然としました。お会いした時にはか細い声ながらも総会の結果を喜んでおられたのに。

SFSがスタートして10年になりますが、委員数60名の内4名の方が天に召されました。発足時に私に事務長をやってくれと言われた時は大役に身の引き締まる思いでしたが、杉山さんの指示でもあり、杉山さんの手足となって行動できればと今日まで参りました。



杉山さんは文字通りSFSの生みの親であり、育ての親でもあります。体調不良にもかかわらず、昨年の総会に参加された姿を忘れることはできません。今後とも多数の委員の加入・参加を期待して活動して参ります。

SFS創始者 故杉山晃 様を偲んで

SFS委員会相談役 遠藤 安一（長岡1）

杉山様の訃報に接し言葉もありませんでした、悲しみにただただ茫然とするばかりでした。

1月19日、SFS役員会議に出席されその後入院加療中には食事が良く摂れないと伺っていました。常に前向きの杉山様のことゆえ、夏の暑さが過ぎれば退院できるものと信じておりました。新潟連盟SFSの立ち上げから、現SFS委員会の

推進に鋭意ご尽力、ご指導頂きましたこと心から感謝申し上げますとともに深く敬意を表します。大変お世話になりました、ありがとうございました。

杉山晃様の在りし日のお顔を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

追 悼

「高橋さ～ん 杉山です！」と、明るい元気な声の杉山さんからの電話がもう来ないというのは、誠に寂しい限りです。

最初に杉山さんとタグを組んだのは、組・拡委員会でした。ここでは張り切りすぎて、へんてこな団（現在無し）を立ち上げてしまったということもありました。その後の長いお付き合いでは、杉山さんは与えられた事はしっかりやり遂げられるので、直近のSFSまでいろいろとお世話になってき

SFS幹事・団委員長 高橋 剛（新発田1）

ました。あらためて感謝の意を表したいと思えます。

ところで、常々羨ましく思うところでしたが、それは杉山さんの亭主関白ぶりです。これはひとえに献身的な奥様の行為によるものと拝察しておりました。

奥様にはお寂しいでしょうが、ゆっくりとお休み下さい。彼岸の杉山さんもゆっくりお休みのことでしょうか。

故 杉山晃氏を悼んで

SFS監事・団委員長 鈴木 正（長岡3）

お葬儀の後、帰路弥彦山を眺めながらのコースを選び車を走らせる。大野大橋を過ぎ、国道26号線に乗るはずが、どうしたことか広い蒲原平野を西へ東へと走り迷子となる。日暮れ時、薄暮から夕闇となり完全な迷子。帰路を走っているつもりが新潟方面と知らされ二度びっくり。まあどうにかなるかと思いを頼りに走っていると、暗闇の中に「国上山」の看板を見つけ、迷子から解放される。良寛様の歩かれた道での迷子、故人と良寛様と重なり念仏を唱えながらの帰路となる。

故人との出会いは、道院高原「ロッジ道院」（H21 10/25-26）からである。一升瓶を前に立て

カップを掲げている写真が懐かしい。



SFS委員会でご自宅へお邪魔したり、新潟・長岡での会合でいろいろお世話を頂く。また、例年実施されるボーイスカウト・カブ・ビーバーラー

に併せたBS入団PRでは、鳥屋野潟スポーツ公園・弥彦公園・真木山中央公園・加茂公園・高田公園等格別にお世話になる。SFS委員会全体集会では、守門の「浦新」、村上の「松風荘」、妙高の「赤倉山荘」等でご指導を頂き歓談をする。

大きな思い出は、BS入団PRの折に寒暖に合わせて飲み物を頂いたこと。また、ラリーでゲームコーナーが与えられた時、手遊び歌「げんこつ山

の狸さん」・ジャンケンポン・ケン玉・なわ結び「本結び」・「スカウトを何人か誘い入れる方法を班で相談し、2～3あげなさい」等、全員で取り組んだことです。

特に忘れられないのは、越前浜「愛幸」で頂いたクッキーは格別に美味しくご家族でBS運動の推進の為に全力を注入された姿と重なり感涙する。……………合掌

故 杉山 晃 氏を悼んで

新潟第16団 団委員長 長谷川 浩

平成26年10月21日の通夜式及び22日告別式にご会葬頂きました友団の各位に心から厚く御礼を申し上げます。

新潟第16団の団委員長、育成会長として、生涯ボーイスカウト運動に貢献された杉山晃氏は平成26年10月18日 享年80歳の生涯を閉じられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに生前の数々のご指導に対して心より御礼を申し上げます。

杉山晃氏は昭和55年4月1日新潟第1団様より分団し、女池・鳥屋野地区をテリトリーとし、カブ隊2隊(44名、リーダー2名)、ボーイ隊(25名、リーダー2名)、シニア一班(8名、リーダー1名)の計82名で新潟第16団を立ち上げ、団委員長として情熱をもって多くのスカウト・指導者の育成に尽力いたしました。(昭和54年の新潟第1団様は、発団31年目を迎え、165名のスカウトを擁する大きな団となりました。そのために安全でキメ細かいスカウティング等が困難になり分団。また日本連盟規約では、健全な団運営と魅力ある隊活動の維持には、1ヶ団のスカウト数は68名として70名前後と基本的に指導していたそうです)。

特にスカウト活動で「自前のスカウトハウス」を持つことの必要性を訴え取り組んできました。そ

れはスカウトの集会や指導者の会議などに使用したり、資材の収容場所であったり、そして時間に制約なくできるのが利点と考えたようです。

女池・鳥屋野近辺に約100坪の土地を無償でお借りし、そこにハウスを建てること自体大変なことなのに、生涯4棟も建設されました。移転や建て替えのつど準備委員会を立ち上げ、情報収集、計画立案し、粘り強く、スピードをもって実行されました。

その内容を紹介いたします。

1号のスカウトハウスは昭和56年9月に市内上所の青木忠作氏より上所小学校脇の空地を約100坪無償で借用し、昭和56年12月に中古ハウス30坪・2階建て1棟を藤田勝利氏より寄贈受けて建設されました。昭和57年7月17日のスカウトハウス開所式で故石本準一氏から祝辞を頂戴したことの写真が「新潟第16団発団12周年記念号」に掲載されておりました。

2号は、平成4年7月に1号ハウスが10年間の使用で雨漏りや床抜けなど痛みが進んだため新品のハウス40坪・2階建てを建設された。育成会員や団委員・指導者、保護者のご協力水道、水洗トイレ、内階段となかなか良い設備になりました。平成8年11月、地主さんの逝去により、平

成9年7月までに移転するよう連絡を受ける。

3号は、平成9年8月に新潟市天野の桑野平一氏より無償で54坪の土地を借用し、中古ハウス30坪・2階建て1棟を建設された。6年間お世話になりましたが地主さん都合で平成15年12月末までに移転するように連絡を受ける。

4号は、平成16年4月に新潟市楚川乙で約100坪の土地を村山武氏より有償で借用し、3号ハウスの部品を利用し、一部を新品に変えて30坪・2階建て1棟を建設された。ここは約5年間使用させてもらいましたが地主さんの都合で移転することになりました。

平成21年8月に長岡市の吉原芳文氏所有プレハブ倉庫(見附市本所)を借用し、備品のみ保管をすることになった。現在、スカウトハウス・備品等は残っておりません。

夫々のスカウトハウスで集会等を経験された指導者・スカウトOB、団友の皆様が最後のお別れに多数参列してくれました。有難うございました。

育成会長さん、本当にお世話になりました。これからは何も考えずに安らかにお休みください。



<平成16年4月 第4号スカウトハウス完成>



<平成16年5月 育成会総会>



<平成19年10月 入団・上進式 シニア一隊>



<平成21年7月 第4号スカウトハウス前>



謹啓 この度 杉山 晃 儀 永眠の際は ご多忙のところ ご会葬頂き
 ました上 ご丁寧なご芳志を賜りまして 厚く御礼申し上げます
 お陰様をもちまして 七七日忌の法要を滞りなく相営むことができました
 生前どれほど皆様に支えられた一生であったかと思つたと感謝にたえません
 誠に勝手ではありますが 皆様から賜りましたご厚志を 故人が心血を注
 いでございました青少年育成に役立てて頂きたく 一般財団法人ボーイスカ
 ウト新潟連盟維持財団 に寄付いたしましたして 香典返しの慣例に代えさせ
 て頂きました 何卒ご了承の程お願い申し上げます
 先ずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます

謹白

平成二十六年十二月

杉山 和代
遺族 一同